

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102955
法人名	医療法人 松岡整形外科
事業所名	グループホーム たいさんじ
所在地	愛媛県松山市太山寺町950-7
自己評価作成日	平成 21年 10月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21年 11月 11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方が思いや願いを表現できるように、笑う・泣く・怒るといった感情を自由に出せるような環境の提供を心がけ、同じ空間で共に過ごし、教え教えられ・支え支えられる関係を大事にしています。地域行事への参加や小学校との交流など、地域とのつながりを大切にしています。日々、心身状況の変化を見極め、医療従事者へ迅速に連絡をとり、重度化しないように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との関わりを大切にしたい理念を掲げ、地域の運動会に参加したり、ホームの祭りには近所の方に参加してもらうなどして交流を深めている。時折ドライブをかねて近くのスーパーや公園などに出かけたり、家族と一緒に外食を楽しむこともある。利用者は状態に応じて食前・食後の手伝いを行っている。職員は、利用者の自室等でゆっくり会話する時間をもち、家族の希望や思いも十分聞き取るように努め、把握した情報をサービスの質の向上につなげている。代表者は、職員一人ひとりと話し合う機会を設けるなど、コミュニケーションを大切に、共にホームの運営に取り組む姿勢をもっている。母体病院とは24時間体制で連携をとり、毎月2回、医師が往診に訪れて健康管理を行っている。母体病院でリハビリを受けている利用者もいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム たいさんじ

(ユニット名) 一階

記入者(管理者)

氏名 白石 かおり

評価完了日 平成21年 10月 6日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 利用者と職員が一緒に考え、地域密着型の理念を作成している。一階の入り口に掲示している。</p> <p>(外部評価) 地域との関わりを大切にし、元気で穏やかにみんなと共に暮らすことを理念として、職員全員で話し合っって作成し、玄関に掲げている。職員間で共有し、日々のケアの実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 掃除や散歩・買い物時、登下校の子供達や近所の方と気軽に声を掛け合っている。また、地域の運動会に参加し、地方祭には神輿が来てくれる。</p> <p>(外部評価) 散歩や買い物の際に、近所の方や登下校中の子どもたちと気軽に声をかけ合っている。地方祭には神輿が立ち寄ったり、地域の運動会に参加したり、ホーム主催の祭りに地域の方を招くなどして交流を深めている。小学校の児童がホームを訪れたり、職員が小学校に向いて高齢者についての話をしている。</p>	自治会に加入する等、さらに地域との連携を密にし、利用者が地域で安心して暮らせるよう、協力体制を構築していく取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 小学校の総合学習で児童の訪問を受け入れている。また、小学校へ行き総合的な学習の時間に高齢者についての話をしている。母体の病院では、月一回介護に関する研修会を開催している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 事業所から日頃の暮らしぶりや取り組み等を報告し、 多方面の方の意見をサービス向上に活かしている。	
			(外部評価) 出席者は会議の意義や役割を理解しており、ホームの 状況やケアの取り組みを報告したり、外部評価を開示 し、質疑応答や意見交換等を行っている。2か月ごと に開催しているが、地域住民の参加がやや少ない傾向 にある。	町内会長や民生委員等、地域のキーパーソンとなる方 の出席をお願いし、地域からの率直な意見や要望など を聞ける会議としていくことを期待したい。また、防 災を議題とする時は消防署の出席をお願いするなど、 会議で取り上げるテーマによって出席者を工夫し、さ らに充実した内容となるような工夫にも期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議や包括支援センター主催の事業所連絡会 に参加し、情報の収集や意見交換を行い協力関係を築 くようにしている。	
			(外部評価) 市担当者とは、地域包括支援センター主催の事業所連 絡会等を中心に情報交換を行っている。また、メール やファクスなどを利用して必要な情報を得ることがで きる体制があり、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は鍵をかけずいつでも出入り出来るような環境に している。利用者の心身状況によりやむをえない場合 にのみ、家族に説明をし同意を得ている。経過を観察 し見直しを行っている。	
			(外部評価) 職員は身体拘束禁止法令をよく理解しており、自由で のびやかな暮らしが送れるよう支援している。安全確 保のためやむを得ずベッド柵を使用しなければならない 場合は、家族に説明して同意を得ている。日中は玄 関に施錠せず、携帯電話で職員同士が連絡を取り合う などしながら見守り、安全なケアに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ミーティングや申し送り時に、声掛けや対応について話し合いをし、虐待防止の徹底に取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 職員が制度を十分に理解する為に、事例のある分かり易い資料を作成して学ぶ機会を設けている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 時間をかけて丁寧に説明し、事業所で出来る事出来ない事、家族にお願いする事等を明確に説明し、理解・納得を図っている。家族会で介護報酬改訂についての説明を行い文書を送付している。面会時にも再度説明をしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族には、日頃の電話連絡や面会時・家族会等で、何でも言ってもらえるよう声掛けをしている。契約時には、苦情相談の公的機関の窓口がある事を説明している。 (外部評価) 職員は、利用者の自室で一人ひとりとゆっくり話し合う時間を確保している。また、家族が来訪した際には希望や思いを率直に聞かせてもらい、遠方の家族には電話等でも確認して、ケアに活かしている。ホーム内及び外部の相談窓口を文書に明記して説明している。半年に1回開催する家族会でも意見を聞き取っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングで話し合い、提案や意見があれば月一回理事長出席のミーティングで報告し検討をしている。 (外部評価) 毎月1回開催するミーティングには代表者も出席し、全員で話し合っ課題を共有し、話し合った提案や意見を運営に反映させている。また、職員は運営法人の事務長に相談等をする機会もあるなど、コミュニケーションを図るよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、頻回にホームへ来ており利用者や職員と関わりを持っている。母体病院で職員の健康診断を実施している。介護報酬改訂に伴い、給与水準を上げている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 多くの職員が研修に参加出来るように、研修情報を知らせ勤務の調整を行っている。また事業所が費用の負担をしている。母体の病院で、月一回の研修を開催し気軽に参加出来るようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 愛媛県グループホーム連絡協議会主催の相互研修への参加・運営推進会議の見学など、同業者と交流している。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 相談時には、本人に会いに行き心身の状態を把握し、本人の気持ちと向き合い関係づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) これまでの家族の関わりや介護の状況等、ゆっくり話しを聞くようにしている。事業所で出来る事・家族に協力してもらう事の話し合いをしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時には、本人や家族の思い・状況を確認し、支援や必要なサービスの提案をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 料理の味付けや下ごしらえを教わって、一緒に作っている。野菜の種を撒く時期や蒔き方など教わっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人の思いや暮らしぶり、職員のケアに対する思いを家族に伝えて相談し協力を得ている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 今まで通りに隣近所の方や友人との行き来が出来るようハガキや電話の取次ぎをしている。友人知人との外出は、家族に相談し了承を得てから行っている。面会時には自室でゆっくり過ごせるようにしている。 (外部評価) 近くのスーパーや公園などに出かけている。以前住んでいた地域の友人・知人に会いに出かける利用者もあり、また電話の取り次ぎをしたり、来訪者があった場合には自室でゆっくり過ごしてもらうなど、馴染みの関係を絶やさないう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士と一緒に座りテレビを見たり話しをしているが、時に言い合いになり気まずくなる。利用者同士の関係を把握しトラブルにならないよう職員が間に入り心地よい場面になるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居した後も本人と家族の理解を得て、時々訪ねている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 言葉や表情から、どう思っているか把握するようにしている。耳が遠い方には、ボードや紙に書き意向を確かめている。本人から語ってもらえるよう、自室へ行きじっくり話を聞いている。	
			(外部評価) 日々の生活の中で利用者一人ひとりへの声かけに努め、また居室でゆっくり会話する時間を大切にするなど、言葉や表情から希望や思いを把握している。家族会の際や、家族の来訪時には、家族の要望や思いを聞き取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から話を聞いたり、他施設や病院からの情報から生活歴などを把握するようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の言動から、一人ひとりの生活のリズムを知り出来る事を把握している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人の思いや家族の要望を聞き、ミーティングで話し合い介護計画を作成している。三ヶ月に一度の見直しをし、カンファレンスを行っている。	
			(外部評価) 各利用者の担当職員が普段の生活の様子や健康状態を把握し、他の職員とも相談しながら原案を作成している。それを基にミーティング時に全職員で話し合い、本人や家族の希望も盛り込みながら介護計画を作成している。基本的には3か月ごとに見直しを行い、状況変化に応じて臨機応変に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別の生活記録に本人の言葉やエピソード・対応結果を記入し、職員間で情報を共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況に応じて、通院の付き添いや送迎の支援をしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域行事へ参加し、公園の利用をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人や家族が希望するかかりつけ医と連携をとり、医 療が受けられるようにしている。受診予定日や残薬 数・本人の状況を家族に伝え、また文書にして受診の 支援をしている。月二回の訪問診療以外でも状態変化 時には主治医に上申し診てもらっている。	
			(外部評価) 利用者及び家族の希望するかかりつけ医を選んで もらっているが、母体病院の医師や協力医療機関とも2 4間体制で連携をとっている。母体病院の医師の往診 が月2回あり、血液検査は毎月実施している。リハビ リを母体病院で受けることもできるなど、健康管理に 努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日常生活の中で小さな変化を見逃さないように観察を し、変化時は看護師に報告している。看護師より主治 医に上申し適切な処置や対応をとるようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行ってい る。	(自己評価) 入院する際には日頃の様子など情報を病院に伝えてい る。度々お見舞いに行き、本人・家族・病院関係者と 情報の交換をし、退院へ向けての支援をしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時や家族会で、ホームの看取りについての指針と ホームで出来る事と出来ない事の説明をしている。状 態の変化時は、その都度家族の希望を確認し、家族・ 医師・管理者で話し合い方針を決め対応をしている。	
			(外部評価) 「看取りに関する指針」を家族に説明し、同意を得て いる。状態が変化した際には本人や家族、医師、管理 者等で話し合い、希望により方針を共有しながらケア にあたっている。状態に応じてホームでの学習を行 い、また母体病院で他ホームにも呼びかけて一緒に学 習を行うなど、職員の研修に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時対応マニュアルを作成し、いつでも見れるようにしている。日常ケアをする場面で看護師からの指導説明はあるが、定期的な勉強会は滞っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を年に二回行っている。防火管理者を配置し消防計画を作成している。 (外部評価) マニュアルと緊急連絡網をスタッフルームに備えている。年間2回の訓練を実施しているが、うち1回は夜間も想定し、また消防署の指導も得て訓練を行っている。備蓄も備え、避難場所も確保している。地域の協力が十分得られる体制ができているとまでは言えない。	運営推進会議等を通じて地域の方に災害対策の協力を依頼し、ホームでの避難訓練にも参加してもらうなどの体制を整えていくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりに合わせて分かりやすく親しみやすい言葉で声掛けをしている。自室訪問時は必ずノックをして確認得てから入っている。 (外部評価) 個人情報保護に関しては全職員が理解して取り組んでいる。職員は、利用者に尊敬の念を持ち、誇りやプライバシーを損ねないよう声かけに努めている。ミーティング時にも話し合い、全職員が利用者一人ひとりの尊厳を大切にしたいケアを行うよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 何かを選ぶ時は、じぶんで決められるよう答えが出るまでじっくりと対応をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの体調を確認し、本人の思いを大切に 柔軟に対応をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 季節にあった装いや重ね着ができるように支援している。一緒に出かけて自分で服を選び購入している。理容師・美容師に来てもらい好みの髪形にしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 下ごしらえや味付け・盛り付けを一緒に行い、皆で一緒に食事をしている。	
			(外部評価) 利用者と食材の買い物に出かけたり、好みのメニューを取り入れることもある。味付け、盛り付け、下膳、食器洗いなどを手伝っている利用者もいる。嚥下機能の低下した利用者には刻み食等を用意するなど個人の状態にも配慮し、傍らでさりげなく支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの食事摂取量・水分摂取量がわかるように記録をしている。個人の身体機能に合わせて箸・スプーン・フォークを用意し、食べやすいようにキザミやスライスにしている。母体病院の栄養士に献立表を見てもらい助言をもらっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、歯磨きをしている。うがいやブラッシング等、一人ひとりの力に応じた声掛けや介助を行っている。一週間に二回、夕食後に義歯を洗浄液へ付けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄時間や状況を把握し、本人に合わせたトイレの声掛けや介助を行っている。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄記録表を詳細に記録し、職員は排泄パターンを把握してさりげなく声かけや誘導をしており、可能な限りトイレでの排泄ができるよう支援している。便秘対策として牛乳や食物繊維の多い食品を摂るよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食物繊維の多い物や乳製品・果物を摂るようにしている。便秘時には、お腹を温めてマッサージをしている。必要な方には、主治医に上申し緩下剤の処方してもらい状況を見ながら服薬の調整をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 日中の入浴になるが、本人の希望や体調を確認し行っている。なかなかお風呂に入らない方は、本人が入りたいタイミングを逃さないよう柔軟に対応をしている。	
			(外部評価) 本人の希望や体調を確認しながら、少なくとも週に2～3回は入浴できるよう支援している。入浴を嫌がる利用者には、職員の声かけを工夫したり、家族が来訪した際に声をかけてもらうなど、無理強いしないで気持ちよく入浴してもらえるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中は、なるべく起きて動き過ぎてもらおうようにしている。疲れた時は自室やリビングで休んでいる。寝付けない時は添い寝し、自室ベッドで寝られない方はリビングにあるソファで簡易ベッドを作り対応をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明書ファイルを作成し、すぐに見られるようにしている。薬は、確実に服薬出来るように飲み込むまで確認をしている。処方の変更時は、申し送りノートに記入し職員全員が把握出来るようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 調理や掃除・洗濯たたみ等、やりたい事・得意な事・出来る事をしてもらっている。好きな歌番組・時代劇・高校野球を見たり、ナツメロをかけ口ずさみ昔を思い出している。庭にある小さな畑で野菜を作っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一緒に買い物へ行ったり、近くの田んぼ道を散歩している。家族と一緒に墓参りをしたり自宅に帰ったりしている。	
			(外部評価) 日常的に散歩に出かけられるよう配慮し、またホームの車でドライブに出かけた際にはスーパーで買い物をしたり、レストランで食事を楽しんでいる。季節ごとの行事も企画し、桜の季節には花見に出かけたり、家族と一緒に外食を楽しむこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金は事業所の金庫で預かり、出納帳を作成し管理をしている。数名ではあるが、本人が希望し家族と相談して小額のお金を持ち、買い物時の支払いや孫が来たときにお小遣いをあげている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望があれば電話をかけている。耳が遠く電話の声が聞こえない方は代わりに対応をしている。ハガキの購入や投函の支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) リビングには大きな窓があり、四季の植物を見る事ができ、いつでもすぐ庭に出られる。光線・室温の調整や換気をしている。</p> <p>(外部評価) 居間には畳の間があり、冬には掘りごたつで寛げる。ソファを随所に配置し、思い思いの場所で居心地よく過ごせるよう配慮している。廊下には、外出時の写真や小学校から届いた手紙なども掲示しており、和やかな雰囲気がある。居間からは美しい山並みや田畑が眺められ、季節の移り変わりを感じられる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ローカの端・玄関ポーチ・駐輪場・庭に椅子を置き、一人で過ごせる場所をつくっている。リビングや食卓にも一人ひとりの落ち着く場所があり、思い思いに過ごしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 使い慣れた家具や使いやすい家具を自室に置き、一人ひとりの動線にそった配置にしている。友人の写真やプレゼントを飾っている。</p> <p>(外部評価) 居室の入り口に好みの暖簾をかけている。部屋は明るく、馴染みの調度品を持ち込み、カレンダーや時計、ぬいぐるみなどを置き、花を飾るなどして居心地よく過ごせるよう工夫している。床暖房と空調が完備されて快適に過ごせ、また押入れがあるため整理整頓しやすい。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) フロア内は段差なく浴室・トイレ・ローカに手すりをつけている。自室やトイレの戸には、利用者の目線に合った高さで名札を付けている。もっと出来ることはないか見極め、安全に配慮して一緒に行っている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102955
法人名	医療法人 松岡整形外科
事業所名	グループホーム たいさんじ
所在地	愛媛県松山市太山寺町950-7
自己評価作成日	平成 21年 10月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21年 11月 11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方が思いや願いを表現できるように、笑う・泣く・怒るといった感情を自由に出せるような環境の提供を心がけ、同じ空間で共に過ごし、教え教えられ・支え支えられる関係を大事にしています。地域行事への参加や小学校との交流など、地域とのつながりを大切にしています。日々、心身状況の変化を見極め、医療従事者へ迅速に連絡をとり、重度化しないように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との関わりを大切にしたい理念を掲げ、地域の運動会に参加したり、ホームの祭りには近所の方に参加してもらうなどして交流を深めている。時折ドライブをかねて近くのスーパーや公園などに出かけたり、家族と一緒に外食を楽しむこともある。利用者は状態に応じて食前・食後の手伝いを行っている。職員は、利用者の自室等でゆっくり会話する時間をもち、家族の希望や思いも十分聞き取るように努め、把握した情報をサービスの質の向上につなげている。代表者は、職員一人ひとりと話し合う機会を設けるなど、コミュニケーションを大切に、共にホームの運営に取り組む姿勢をもっている。母体病院とは24時間体制で連携をとり、毎月2回、医師が往診に訪れて健康管理を行っている。母体病院でリハビリを受けている利用者もいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム たいさんじ

(ユニット名) 二階

記入者(管理者)
氏名 白石 かおり

評価完了日 平成 21年 10月 6日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 利用者と職員が一緒に考え、地域密着型の理念を作成している。二階の入り口に掲示している。</p> <p>(外部評価) 地域との関わりを大切にし、元気で穏やかにみんなと共に暮らすことを理念として、職員全員で話し合っって作成し、玄関に掲げている。職員間で共有し、日々のケアの実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 掃除や散歩・買い物時、登下校の子供達や近所の方と気軽に声を掛け合っている。また、地域の運動会に参加し、地方祭には神輿が来てくれる。</p> <p>(外部評価) 散歩や買い物の際に、近所の方や登下校中の子どもたちと気軽に声をかけ合っている。地方祭には神輿が立ち寄ったり、地域の運動会に参加したり、ホーム主催の祭りに地域の方を招くなどして交流を深めている。小学校の児童がホームを訪れたり、職員が小学校に向いて高齢者についての話をしている。</p>	自治会に加入する等、さらに地域との連携を密にし、利用者が地域で安心して暮らせるよう、協力体制を構築していく取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 小学校の総合学習で児童の訪問を受け入れている。また、小学校へ行き総合的な学習の時間に高齢者についての話をしている。母体の病院では、月一回介護に関する研修会を開催している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 事業所から日頃の暮らしぶりや取組み等を報告し、 多方面の方の意見をサービス向上に活かしている。	
			(外部評価) 出席者は会議の意義や役割を理解しており、ホームの 状況やケアの取組みを報告したり、外部評価を開示 し、質疑応答や意見交換等を行っている。2か月ご とに開催しているが、地域住民の参加がやや少ない傾向 にある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議や包括支援センター主催の事業所連絡会 に参加し、情報の収集や意見交換を行い協力関係を築 くようにしている。	
			(外部評価) 市担当者とは、地域包括支援センター主催の事業所連 絡会等を中心に情報交換を行っている。また、メール やファクスなどを利用して必要な情報を得ることがで きる体制があり、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は鍵をかけずいつでも出入り出来るような環境に している。利用者の心身状況によりやむをえない場合 にのみ、家族に説明をし同意を得ている。経過を観察 し見直しを行っている。	
			(外部評価) 職員は身体拘束禁止法令をよく理解しており、自由で のびやかな暮らしが送れるよう支援している。安全確 保のためやむを得ずベッド柵を使用しなければならない 場合は、家族に説明して同意を得ている。日中は玄 関に施錠せず、携帯電話で職員同士が連絡を取り合う などしながら見守り、安全なケアに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ミーティングや申し送り時に、声掛けや対応について話し合いをし、虐待防止の徹底に取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 職員が制度を十分に理解する為に、事例のある分かり易い資料を作成して学ぶ機会を設けている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 時間をかけて丁寧に説明し、事業所で出来る事出来ない事、家族にお願いする事等を明確に説明し、理解・納得を図っている。家族会で介護報酬改訂についての説明を行い文書を送付している。面会時にも再度説明をしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族には、日頃の電話連絡や面会時・家族会等で、何でも言ってもらえるよう声掛けをしている。契約時には、苦情相談の公的機関の窓口がある事を説明している。 (外部評価) 職員は、利用者の自室で一人ひとりとゆっくり話し合う時間を確保している。また、家族が来訪した際には希望や思いを率直に聞かせてもらい、遠方の家族には電話等でも確認して、ケアに活かしている。ホーム内及び外部の相談窓口を文書に明記して説明している。半年に1回開催する家族会でも意見を聞き取っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングで話し合い、提案や意見があれば月一回理事長出席のミーティングで報告し検討をしている。 (外部評価) 毎月1回開催するミーティングには代表者も出席し、全員で話し合っ課題を共有し、話し合った提案や意見を運営に反映させている。また、職員は運営法人の事務長に相談等をする機会もあるなど、コミュニケーションを図るよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、頻回にホームへ来ており利用者や職員と関わりを持っている。母体病院で職員の健康診断を実施している。介護報酬改訂に伴い、給与水準を上げている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 多くの職員が研修に参加出来るように、研修情報を知らせ勤務の調整を行っている。また事業所が費用の負担をしている。母体の病院で、月一回の研修を開催し気軽に参加出来るようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 愛媛県グループホーム連絡協議会主催の相互研修への参加・運営推進会議の見学など、同業者と交流している。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 相談時には、本人に会いに行き心身の状態を把握し、本人の気持ちと向き合い関係づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) これまでの家族の関わりや介護の状況等、ゆっくり話しを聞くようにしている。事業所で出来る事・家族に協力してもらう事の話し合いをしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時には、本人や家族の思い・状況を確認し、支援や必要なサービスの提案をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 調理や後片付け・掃除・洗濯等、利用者と職員が互いに協力して行っている。また、何もしていない時に利用者の傍で一緒に時間を過ごしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日々の暮らしの出来事や本人の思い・希望を家族に報告・相談して協力を得ている。家族の希望がある時は、自室に泊まったり一緒に食事が出来るようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 知人・友人との交流が途切れないように、電話の取次ぎや面会時には自室でゆっくり過ごせるようにしている。知人・友人との外出は、家族に相談し同意を得て行っている。 (外部評価) 近くのスーパーや公園などに出かけている。以前住んでいた地域の友人・知人に会いに出かける利用者もあり、また電話の取り次ぎをしたり、来訪者があった場合には自室でゆっくり過ごしてもらうなど、馴染みの関係を絶やさないよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 気が合う合わないの関係を把握し、常に目配り気配りをして、職員が調整役になっている。食事やお茶の時間が和やかになるよう雰囲気作りをしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居した後も本人と家族の理解を得て、時々訪ねている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々関わりの中で会話をし、言葉や表情から把握するように努めている。家族や関係者からも情報を得るようにしている。	
			(外部評価) 日々の生活の中で利用者一人ひとりへの声かけに努め、また居室でゆっくり会話する時間を大切にするなど、言葉や表情から希望や思いを把握している。家族会の際や、家族の来訪時には、家族の要望や思いを聞き取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から話を聞いたり、他施設や病院からの情報から生活歴などを把握するようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の言動から、一人ひとりの生活のリズムを知り出来る事を把握している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人の思いや家族の要望を聞き、ミーティングで話し合い介護計画を作成している。状況変化時にはカンファレンスを行い介護計画を作成している。	
			(外部評価) 各利用者の担当職員が普段の生活の様子や健康状態を把握し、他の職員とも相談しながら原案を作成している。それを基にミーティング時に全職員で話し合い、本人や家族の希望も盛り込みながら介護計画を作成している。基本的には3か月ごとに見直しを行い、状況変化に応じて臨機応変に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 本人の言動や気持ち、それに対する対応などを生活記録や申し送りノートに記入し、職員間で共有をしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況に応じて、通院の付き添いや送迎の支援をしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域行事へ参加し、公園の利用をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 本人や家族が希望するかかりつけ医と連携をとり、医 療が受けられるようにしている。受診予定日や残薬 数・本人の状況を家族に伝え、また文書にして受診の 支援をしている。月二回の訪問診療以外でも状態変化 時には主治医に上申し診てもらっている。</p> <p>(外部評価) 利用者及び家族の希望するかかりつけ医を選んでも らっているが、母体病院の医師や協力医療機関とも2 4間体制で連携をとっている。母体病院の医師の往診 が月2回あり、血液検査は毎月実施している。リハビ リを母体病院で受けることもできるなど、健康管理に 努めている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 日常生活の中で小さな変化を見逃さないように観察を し、変化時は看護師に報告している。看護師より主治 医に上申し適切な処置や対応をとるようにしている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院する際には日頃の様子など情報を病院に伝えてい る。度々お見舞いに行き、本人・家族・病院関係者と 情報の交換をし、退院へ向けての支援をしている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居時や家族会で、ホームの看取りについての指針と ホームで出来る事と出来ない事の説明をしている。状 態の変化時は、その都度家族の希望を確認し、家族・ 医師・管理者で話し合い方針を決め対応をしている。</p> <p>(外部評価) 「看取りに関する指針」を家族に説明し、同意を得て いる。状態が変化した際には本人や家族、医師、管理 者等で話し合い、希望により方針を共有しながらケア にあたっている。状態に応じてホームでの学習を行 い、また母体病院で他ホームにも呼びかけて一緒に学 習を行うなど、職員の研修に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時対応マニュアルを作成し、いつでも見れるようにしている。日常ケアをする場面で看護師からの指導説明はあるが、定期的な勉強会は滞っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を年に二回行っている。防火管理者を配置し消防計画を作成している。 (外部評価) マニュアルと緊急連絡網をスタッフルームに備えている。年間2回の訓練を実施しているが、うち1回は夜間も想定し、また消防署の指導も得て訓練を行っている。備蓄も備え、避難場所も確保している。地域の協力が十分得られる体制ができているとまでは言えない。	運営推進会議等を通じて地域の方に災害対策の協力を依頼し、ホームでの避難訓練にも参加してもらうなどの体制を整えていくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者に合わせた言葉掛けや対応をしている。仲良くなり過ぎて馴れ合いにならないように、ミーティングや申し送り話し合い、点検をしている。 (外部評価) 個人情報保護に関しては全職員が理解して取り組んでいる。職員は、利用者に尊敬の念を持ち、誇りやプライバシーを損うことのないよう声かけに努めている。ミーティング時にも話し合い、全職員が利用者一人ひとりの尊厳を大切にケアを行うよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 選択が必要な場面では、答えが出るまでじっくりと待っている。本人が分かる身振り手振りで対応し、思いを確認している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の流れはあるが、一人ひとりのペースに合わせて支援している。本人の希望や意向に添えない時は話しをし待ってもらっている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎朝の化粧や出かける時の装い等、本人が楽しめるように支援している。衣服のみだれ等はそっと直して身だしなみを整えている。理容師・美容師に来てもらい好みの髪形にしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 本人が出来る調理や盛り付け・片付けを一緒にしている。皆で食卓を囲み食事を楽しんでいる。	
			(外部評価) 利用者と食材の買い物に出かけたり、好みのメニューを取り入れることもある。味付け、盛り付け、下膳、食器洗いなどを手伝っている利用者もいる。嚥下機能の低下した利用者には刻み食等を用意するなど個人の状態にも配慮し、傍らでさりげなく支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの食事摂取量・水分摂取量がわかるように記録をしている。個人の身体機能に合わせて箸・スプーン・フォークを用意し、食べやすいようにキザミやスライスにしている。母体病院の栄養士に献立表を見てもらい助言をもらっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、自分で歯磨きが出来の方は自分で行う。出来ない方は、声掛けしたり洗面所まで一緒に行き、ブラッシング等の介助をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄時間や状況を把握し、本人に合わせたトイレの声掛けや介助を行っている。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄記録表を詳細に記録し、職員は排泄パターンを把握してさりげなく声かけや誘導をしており、可能な限りトイレでの排泄ができるよう支援している。便秘対策として牛乳や食物繊維の多い食品を摂るよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食物繊維の多い物や乳製品・果物を摂るようにしている。便秘時には、お腹を温めてマッサージをしている。必要な方には、主治医に上申し緩下剤の処方をしてもらい状況を見ながら服薬の調整をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 昼間の入浴になるが、本人の希望や体調を確認し入浴をしてもらっている。	
			(外部評価) 本人の希望や体調を確認しながら、少なくとも週に2～3回は入浴できるよう支援している。入浴を嫌がる利用者には、職員の声かけを工夫したり、家族が来訪した際に声をかけてもらうなど、無理強いしないで気持ちよく入浴してもらえるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 本人の心身状況や疲れ具合に合わせて、自室や和室で休んでもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明書ファイルを作成し、すぐに見られるようにしている。薬は、確実に服薬出来るように飲み込むまで確認をしている。処方の変更時は、申し送りノートに記入し職員全員が把握出来るようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家事が好きで得意な方は、一緒に調理や片付けをしている。庭や玄関ポーチに出て井戸端会議を楽しんでいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一緒に買い物へ行ったり、近くの田んぼ道を散歩している。家族と一緒に墓参りをしたり自宅に帰ったりしている。	
			(外部評価) 日常的に散歩に出かけられるよう配慮し、またホームの車でドライブに出かけた際にはスーパーで買い物をしたり、レストランで食事を楽しんでいる。季節ごとの行事も企画し、桜の季節には花見に出かけたり、家族と一緒に外食を楽しむこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金は事業所の金庫で預かり、出納帳を作成し管理をしている。自分で持っていたい方は、家族と相談し小額を手元においている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話をかけたい時は、職員が番号を押し最初の取次ぎをしている。現在、手紙を書ける方はいない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 共有の空間は広々とした明るいスペースにしている。室温の調整や換気を行い心地良く過ごせるようにしている。</p> <p>(外部評価) 居間には畳の間があり、冬には掘りごたつで寛げる。ソファを随所に配置し、思い思いの場所で居心地よく過ごせるよう配慮している。廊下には、外出時の写真や小学校から届いた手紙なども掲示しており、和やかな雰囲気がある。居間からは美しい山並みや田畑が眺められ、季節の移り変わりを感じられる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビングのソファや台所の椅子等、一人ひとりの落ち着く場所がある。一人でいたり気の合う同士と一緒に座ったり、思い思いに過ごしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 本人の心身状況に合わせた家具の配置をしている。本人や家族と相談して使い慣れた家具や使いやすい家具を置いている。写真・ぬいぐるみ・花をかざっている。</p> <p>(外部評価) 居室の入り口に好みの暖簾をかけている。部屋は明るく、馴染みの調度品を持ち込み、カレンダーや時計、ぬいぐるみなどを置き、花を飾るなどして居心地よく過ごせるよう工夫している。床暖房と空調が完備されて快適に過ごせ、また押入れがあるため整理整頓しやすい。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) フロア内は段差なく浴室・トイレ・ローカに手すりをつけている。自室やトイレの戸には、利用者の目線に合った高さで名札を付けている。もっと出来ることはないか見極め、安全に配慮して一緒に行っている。</p>	